

# 二 寺町寺院群の鐘



「金沢市寺町には、大小合わせて70あまりのお寺があり、400年の歳月を経て、今もなお落ち着いた町並みを残しています。長い一日も終わり、寺町通りの車の流れもひととき途絶えるころ、鐘の音が町に響きわたります。」



## かいせつ



金沢市内の南方、犀川沿いに位置する寺町は、その名の通り70あまりの寺院が立ち並び、情緒あるたたずまいを残しています。藩政時代、加賀藩三代藩主前田利常の命により金沢市内に点在していた寺院は寺町と卯辰山の2か所に集められました。その目的は攻め込む敵に対して、寺院群に要塞の役目をさせることにあったと言われていました。寺町の寺院群には、文豪室生犀星が幼年時代を過ごした雨宝院や広い禅庭を持つ竜淵寺、忍者寺として有名な妙立寺など特徴のある寺が多くあります。しかし、第2次世界大戦で鐘などの金属類を軍に提供したことや、戦後の生活様式の変化などにより、現在、朝夕定時(午前・午後5時)に鐘をついている寺はそう多くありませんが、住民の手で毎週土曜日の夕方6時と大晦日に鐘がつかれている寺もあり、少しずつその数も増えてきています。寺町に鳴り響く鐘の音は、町の生活音と重なり日常生活と一体となった音色と言えるでしょう。なお、この音は環境庁の「日本の音風景100選」に認定されています。